寄稿
村田蓮爾

YELLOW

これは、見る物語です

Hex AD 8C 38

イラストストーリー
「イエロー」

◎絵と文
陳淑芬
Chen, Shu-Fen
平凡
Common
銀花
Yin Hua

◎訳
鈴木麻里子
Mariko Suzuki

Yellow Hex AD 8C 38

ISBN4-7968-7011-3

C0076 ¥1600E

9784796870115

Yellow Hex AD 8C 38
イエロー

定価:本体1,600円＋税

1920076016004

小学館プロダクション

◎絵と文
陳淑芬
Chen, Shu-Fen
平凡
Common
銀花
Yin Hua

◎訳
鈴木麻里子
Mariko Suzuki

Yellow Hex AD 8C 38

小学館プロダクション

そうよ！　雨がいけないんだわ、突然降ってくるんですもの
……だから転びそうになったの。

「是啊！突然下的好大。剛進來時還差一點跌倒呢！」

That's right! The rain came so suddenly that I almost slipped when I came in.

「還好。沒怎麼樣。」

"It's OK, nothing really hurt."

「對了！剛說到哪裡？」

"Oh yeah! What we just said?"

でも平気。なんてことない。
そうね、みんな何て言ってたかしら……

「哦。是啊。從小大家都説我很幸福。
我也一直這麼認為。
長得不差、 功課不錯 、 家裡環境小康。
就這麼，我也一付理所當然的樣子。
當然那都是高三之前的事。」

'Oh thats right Everybody said that I was a lucky girl.
and I felt the same way too.
Im good looking my grade is not bad and my family is wealthy.
Thats why I think everything was easy.
But that was before the third year of high school."

そう、みんな私のことラッキーな女の子だって言ってたっけ。
結構かわいいし、成績もまあまあ、恵まれた家に育ってるって
……私もそう思ってた。高校三年のあの日までは。

「有，高二時。是哥哥的大學同學。
其實並不是特別喜歡他。
只是他常來家裡。
久了，熟了後就一起看電影逛街。
也很自然變成約會。」

"Oh yes In the second year of high school He was my brothers classmate
Actually I didnt like him very much
Were familiar just because he came to my home very often
Then we went out for movies shopping As time passes
we dated with each other"

彼と初めて出会ったのは、私がまだ高校二年生の頃。
お兄ちゃんの友達で、しょっちゅう家に遊びに来てた彼のこと、
最初は気に入らない奴って思ってた。でも、何となく気になってたのかも。
だって、すれ違う瞬間ちょっとドキドキしてたから。
そのうち映画に行ったりショッピングに行ったり、
ふたりだけで出かけるようになったの。これって、デートって言えるのかな？

「他？是高三那年。
也和今天一樣，下著大雨。
我趕著出門，
才離開家大門不久，走的太急滑了一跤。
整個人坐在地上，傘掉了，全身溼透。
他就正好站在我的面前。
也不扶我，
就這麼盯著我看。
我突然覺得好笑，就大笑了起來。」

'Him? That was the third year of high school.
That days just like today. it's raining too.
I was in a hurry.
and then fell down to the ground just after rushing out of door.
I sat on the ground. the umbrella slipped off my hand and I was all wet.
He stood in front of me and saw everything.
but didn't come to get me up.
just looked at me.
Suddenly I felt so funny and couldn't help laughing.'

雨……高校三年のあの日も、こんな風に雨が降っていた。
「彼、心配してるかな。」
気持ちばかりが焦って、ドアを出たところで思いっきりつまずいちゃった。
転んでびしょ濡れになった私を、彼はただ、黙って見てた。
「どうしよう、恥ずかしい……」
でも、私には笑うことしかできなかったの。
何も見えない　何も聞こえない
ただ響いてるのは、ずぶ濡れになった私の笑い声だけ……

「是啊，是很不可思議。
摔倒在溼答答髒兮兮的馬路上還笑的出來。」

"Yeah it's really unbelievable How could a lady
falling down to the ground with whole body wet laugh so happily?"

想像できる？　びしょ濡れで泥だらけの女の子が楽しそうに笑ってるなんて。
でも、そうするしかなかった。私にはそれしかできなかったの。

GUESS

「對，或許是掩飾我的尷尬。
但，事後回想起來，
從第一眼開始，似乎就註定了要受他的折磨。

'Well, I might be just covering my embarrassment.
But after that I recalled, from the beginning,
It was destined that I had to tolerate his bad behavior.

ええ、確かに恥ずかしかった。
でも、最初から彼の失礼な態度に耐えるのは私の運命だったのかも。
そんな風にしか思えなかったわ。

愛……甘くて暖かくて優しくて、とっても素敵な響き。
でも、ホントはすごく苦しいの。心が痛くて泣いてるの。

原本我一直認定自己是個幸運的女孩。
其實我是不知道，人會這麼矛盾。愛一個人會那麼苦。」

At first I thought I was the lucky one. But the truth was
I didn't know how painful to love a man"

「很近。就在我們隔巷的那棟老舊公寓。
我常經過那裡。每次走過時，都用跑的。
因為好怕它會垮下來壓到我。沒想到，他竟然住在那裡。
更沒想到有一天，我會一天到晚的往那裡鑽。」

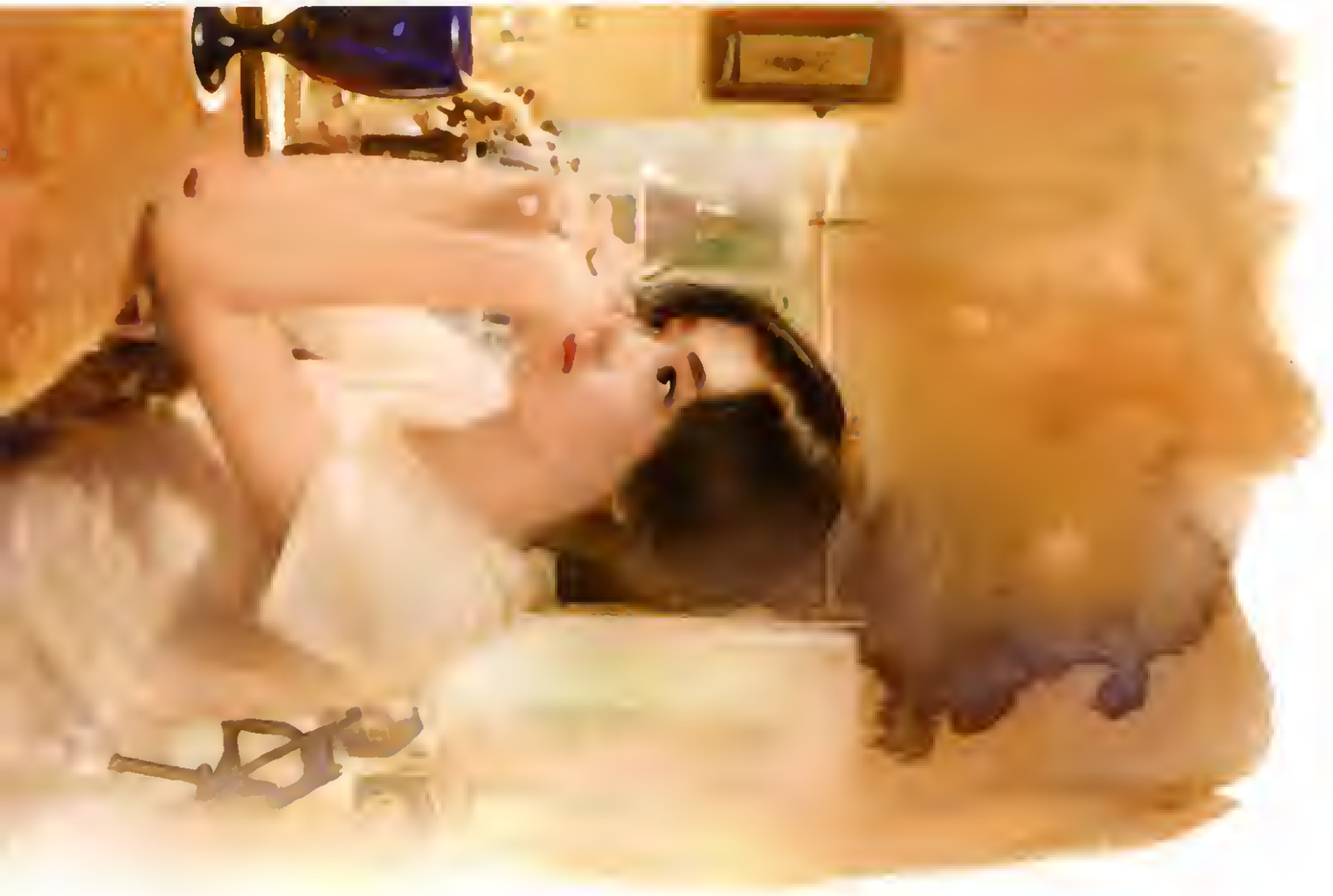
It's near. The old department was just next to our alley.
I passed it quite often. Each time I passed by, I ran through it
because I was afraid it would fall down to me.
I never thought of that he would live there,
and I would go there from time to time.

学校の帰り道、古い古い建物があった。
そこを通り抜ける時、いつも早足だった。
今にも崩れ落ちそうな気がしてたから……
まさか、あの古びたお家の中に彼が住んでいたなんて
その時は思いもしなかった。

「我知道它忌妒我的幸福。它要我痛苦，
但不知道就是有一股莫名的力量拉著我去找他。

"I knew he was jealous for my happiness.
He wanted me to suffer for that.
but he didn't know there was an unknown force driving me to him

幸せだった私　その幸せに嫉妬していた彼。
ふたりの出会いは、不思議な運命の赤い糸で結ばれてた。
でもそれは、とても儚い細い糸……



常去找他時，他一打開門，
氣不吭一聲的看我一眼，轉過身繼續坐到電腦前，
敲鍵盤。睬都不睬我。」

When I went to him, he didn't say a word but kept doing his own business,
typing keyboard or something. He just ignored me."

彼を訪ねた私。
それを無視するように仕事を続けていた彼。

「高三。學校功課是很緊。
但我把心思全放在他身上，飯吃了沒？
冷不冷？熱不熱？其實都是些無聊的煩惱。
唉，卻又阻止不了去想。
所以去年才會重考，媽媽氣得好幾天不跟我説話。」

'Yeah in the third year of high school.
Therere a lot of studies to do, and I should concentrate on them
but my mind was all about him.
Did he feed himself? Did he feel cold?
I knew its nonsense but I just couldnt stop thinking of him.
Thats why I couldnt pass the entrance examination of university
thats why my mothers so angry with me.
She even wouldnt talk to me for several days.'

どんな瞬間もどこにいても、心の中は彼であふれそうだった。
「今どこで何してるの？」「今日は誰と何を話したの？」
貴方に気づかれずに心の中をのぞけたらって、何度も思ったわ。
バカみたい、でも私の心はあなたの全てに縛られてたの。信じられないくらい。
入試に失敗しちゃった時、ママは怒って口も聞いてくれなかった。

「愛？當然。他心情好時陪我笑、陪我哭，
帶我在台北的街道奔跑、整夜坐在鄉下的簡陋車站長椅上，
感受黑暗離去的瞬間……。
反正很多很多我不曾經驗過的瘋狂事情。
尤其是他盯著我時，對他的不悅全沒了。」

"Love? Sure! When he had the mood,
we laughed, we cried, we ran over the street all night.
We sat on the bench of an unknown countryside station,
and felt the moment of coming twilight together.
Those crazy things I never dreamed of.
When he looked into my eyes, all the malaise had gone away."

忘れないわ、ふたりの愛は永遠だって思ってたあの頃のこと。
誰もいない遠い街の駅、ベンチに座って話しこんだ。何時間も何時間も。
つまらないことでバカみたいに笑ったり、時には涙が止まらなくて彼を困らせたこともあったわ。
でも、いつも思ってた。もし神さまがいるのなら、私のたった一つのお願い聞いてくれるはずだって。
“このまま時を止めて。彼が私だけの物になりますように。永遠に。”
私を見つめる彼の瞳、不思議……魔法にかかったみたいに不安や痛みが消えてゆく。

彼は私の全てだった　まぎれもなく私の世界そのものだった。
ちょっとでも会えない日が続くともうダメ。
考えるのは彼のことばかり、彼の言葉、しぐさ、
一つ一つ思い出すだけで胸が苦しくなる。

「當然也會想。但兩天不見，滿腦子都是他。
屋子裡全是他的身影、書上全是他的影像。」

'Off course I did. But if I didnt see him for a couple of days
he would be the only thing I ever think of
Hes my whole world' His reflection was everywhere
on the wall on the book on everywhere I saw"

GUESS?

「沒有。他走的那天，雨下的好大。
他家人打電話來，
他給我的感覺一直像是孤兒。
竟然還有家人會打電話來，
不知是雨聲讓我聽不清楚現那頭說的話，
還是我腦海裡一片空白。
只聽到什麼，走了，留了封信給我。」

'No. The day when he went away was raining again.
His family called. The funny was,
I always felt that he lived alone.
And he had relatives!
I could hardly hear the voice from the phone.
I wondered if the rain or my empty mind caused it.
All I got was he had gone, and left me a letter.'

窓をたたく雨の音……せつなくておかしな偶然の一致
そう、彼が私のもとを去ったのもこんな雨の日だった。
突然鳴った電話のベルに、なんだか胸騒ぎがした。
受話器を取ると彼の家族からの一方的な連絡、
彼が街をでなきゃいけないって。
聞こえない、聞こえないよ……何も聞きたくない
空っぽの心の中にこだまする優しかった彼の声、
そして、雨の音……
彼は行ってしまった、一通の手紙だけ残して。

「是，想都想不到。他竟然只留下一封信給我。
還是他妹妹打電話來的。
我收到信，放在桌上整整兩天，
這兩天我就望著那封信癱在家裡，沒辦法動。
我覺得好恨好恨上帝。祂為什麼這樣對我？」

'Well I never thought that he left me a letter
It's his sister who called.
I took the letter but I didn't read it.
Just left on my desk for two days. I stared at the letter
but couldn't move.
What on my mind was , I hate god! Why it treated me this way!'

私の心を縛る、ちっちゃな四角い封筒……
彼の妹から受け取って机に置いて、そのまま……
神さまの意地悪！
どうして私に読むことが出来たっていうの？
本当は恐くて、こわくて封を切れなかったのに。

「寫什麼？我不知道。到了第三天，
我狠狠地將那封信撕掉，撕的碎碎的，
讓它不可能拼起來或看得懂裡面的內容。」

What's on the letter? I didn't know
On day three I tore the letter to pieces
No one could put it back to see the content."

彼の見えない面影探して、手紙に彼の優しさ求めて、
でも、それは幻……　もう、もとには戻れないの。
眠れなかった二夜のあと、手紙は封を切らずに破いて捨てた。

「我恨他。恨他這麼對我。
恨他讓我這麼痛苦，更恨他不曾說過愛我。」

"I hate him! I hate him treat me like shits. I hate him make me so painful.
And I hate him never said a word about loving me."

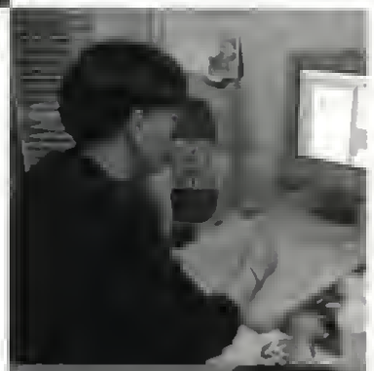
彼なんか大嫌い！
愛して……なんて二度と言わない。

我們兩個的邂逅很不可思議，像有人在惡作劇似的。
而分手就像一顆沒有吞下去的藥丸似的噎在那裡，很不舒服。
我需要一杯水讓它吞下去。
但我又不知道到哪裡去拿那杯水。」

"It's so unbelievable that we fell in love
like someone played a joke on me
And leaving him like a pill stuck in my throat
made me so uncomfortable! I needed a glass of water
but I didn't know where to find it…"

どうして……ふたりは恋をしてしまったの？
もしかして……運命のいたずら？
彼との思い出が私の心をいつまでも苦しめた。
喉に何かがつかえたように。
水の入ったグラスが欲しい。
私の思考は止まったまま……
どこにあるの……水の入った一杯のグラス……。

パワーマックG3を使っての
製作の様子。



陳淑芬（左）、平凡（右）

陳淑芬、平凡インタビュー

お二人のデビューはいつ頃で、なぜこの仕事を始めたのですか？

★陳淑芬――21才ころです。絵を描くことに興味があったのが大きいと思います。
◆平凡――22才ころです。この仕事は幼いころからの夢でしたから。

今までの作品にはどんなものがありますか？ また、その中で特に気に入っている作品は？

★――今までに発表した作品は、複製画集（三点）、ポストカードブック（二点）、「Yellow」を含む彩虹書シリーズ（三点）と画集（二点）などです。
個人的に好きなのは「Yellow」ですが、次の作品もかなり期待できる内容ですよ。
◆――「夏日之後」、「FOCUS.」、「悪男」、「白日夢」、「銀色悪男」などです。僕は、全部気に入っています！

「Yellow」ではCGを使って絵を描いているそうですが、いつからコンピュータを使い始めたのですか？ また、特に使うソフト等はあるのでしょうか？

◆――今使っているソフトは、「PAINTER」というソフトです。僕は四年ほど前からコンピュータを使いはじめました。
★――私も「PAINTER」です。使い始めたのは平凡さんより遅くて三年半ほど前からですね。

手書きのイラストに比べて画材としてのCGに対してどう思いますか？ また、「Yellow」ではモデルを撮影してデジタルで絵に描き起こしたと言う事ですが、どんなプロセスを実際に行ったのでしょうか？

★――CGは面白くて、しかも素晴らしい画材だと思います。最初CGを使ったときは初めて絵を習ったときのように大変でしたが、半年ぐらいでスムーズに作業ができるようになりはじめ、違和感などもなくなりました。プロセスは「Yellow」を例にすると、まず銀花さんとストーリーの設定を考えます。ストーリーが決まってから、場所とモデル探しをしたんです。ちなみに主人公の女の子のモデルは、私の従姉妹なんですよ！

「Yellow」では、風景とモデルが撮影され、それらのイメージをイラストのベースにした。

◆――CGには、限りない可能性があると思います。手書きのイラストと比べても違うところはないですね。ただ、コンピュータでは着色がきれいすぎるのが問題かな。

「Yellow」の主人公に関しての質問ですが、彼女はどんなふうに生まれたキャラクターでしょうか？　また、作画をする上で、性格付け等の作業も行ったのですか？

★◆――銀花さんのストーリーに基づいて描いたんですが、性格付けも行いましたし、作画中は彼女と話をするような感覚で描きましたね。

次の作品では日本が舞台になるかも……という事ですが、もしそうなら、特定の街とか、人物を想定されていますか？また、どんな事を意識して作業をするのでしょうか？

★◆――まだ内緒なんですが……(笑)。雪の降るクリスマスの東京が舞台の恋愛ストーリー。ユニークなのはセリフ無しで、絵だけで綴られていくところ。
あとは秘密！

日本や海外で特に好きな作家、影響を受けた人はいますか？

★――好きな作家はたくさんいますよ。全部をあげることはできませんが、まんが家だと、あだち充、高橋留美子、谷地恵美子、皇なつき、高橋葉介、田島昭宇の各氏。イラストレーターだと、東逸子、おおた慶文、永田萌、寺田克也、村田蓮爾の各氏。画家だと、天野喜孝氏。小説や映画作家なら、吉本ばなな、田中芳樹氏などです。
◆――僕も好きな作家はたくさん！
特に影響を受けた人は、上條淳士、村上春樹の各氏ですが……。まんが家だと、あだち充、手塚治虫、萩尾望都、皇なつき、高橋葉介、田島昭宇、多田由美、高橋留美子、谷地恵美子、上條淳士の各氏。イラストレーターだと、寺田克也、村田蓮爾、毛利彰の各氏。画家は、たくさんいるので、あげられません！　小説なら村上春樹氏。

村田蓮爾さんなど、日本のアーティストとも親交があると聞いていますが、今後日本の作家と共同で作品を作ると言う事に対して、どう思いますか？　また、それが実現したときに挑戦したいスタイルとか、物語とかはあるのでしょうか？

★――もちろん、今後日本の作家と共同で作品を作るというチャンスがあれば、やってみたいです。特に村田蓮爾さんには、お目にかかった時に親切にしていただきました。村田さんは私がとても尊敬する作家です。
題材としては、政治とか少し風刺のきいた題材とかに挑戦してみたい。でも難しそうですね。
◆――僕も、チャンスがあればぜひ共同で作品を作ってみたいです。題材としては、連続殺人事件、あるいはホラーの雰囲気がただよっているのがいいな。

最後に日本の読者に対してメッセージをお願いします。

★――日本では初めての作品ですが、どうぞよろしくお願いいたします。
◆――日本のみなさんに気に入っていただけたら嬉しいです。

陳淑芬による画集「浮生若夢」(左)「豆腐魚」(中)
平凡によるフルCGまんが「FOCUS.」(右)

彩虹書シリーズ―左より「紅色」「藍色」「黄色」

鈴木麻里子インタビュー

お仕事は声優さんですが、声優になろうと思ったきっかけは？

●鈴木――「バイオニック・ジェミー」というテレビ映画があって、その声をあてていらしたのが田島礼子さんなんです。すごく色っぽくて、素敵な声の方だなぁ、と思って、声という仕事に漠然としたあこがれを抱きました。

今回は翻訳に挑戦していただきましたが、特に抵抗はなかったですか？

●――文章というか、字を書くことは好きでした。小さい頃は作業的に文字を書くのが好き！ とか……。で、中学、高校になるにつれ、それに感情が加わってきたんです。恋愛をして、心のなかの想いを紙にしたためる、みたいなことはよくやっていましたよ。
今、誰かが読んだら卒倒してしまうぐらい恥ずかしい内容だと思うので、とてもお見せできませんが、私の秘密の隠し場所が、洋服ダンスの一番下のところだったので、もしかしたら今でもあるかもしれません。

好きな物語や、作家はいますか？

●――好きな作家は、チャールズ・ブコウスキー*―1です。酔っぱらいオヤジなんですが、生き方がすごくアウトローで、かっこいいなと思っています。彼の著書はほとんど読んでいます。あと、キャサリン・ダンの書いた「異形の愛」*―2という本は、ちょっと普通のストーリーっぽくなくて、偏っているんですが、私は気に入っているんですよ。

今回の翻訳で一番工夫したのはどんなところですか？

●――このお話は、主人公の少女の目を通して描かれた世界なんですが、感情表現を控えめにするように気をつけました。でも、抑えた中に彼女のせつない気持ちとか、言葉にできないフレーズとか、そういうものが浮かぶような文章ができたらいいなと思ったんです。間合いも、普通の女の子が自分を見つめるというスタンスなんですよ。
また、詩的な部分もちょっと含ませたかったので、彼女を通して生まれた言葉の世界を、どうやって詩におきかえて表現するか、という点にも気をつけました。

この本の魅力を伝えるとすれば、どんな点ですか？

●――まず、絵がかわいい。最初見たときは写真と間違うくらいリアルだったし、繊細で素敵な絵だなって思いました。それから、テーマが女の子の恋愛なんですが、そんな世界的にも共通の話題を、英語、日本語、中国語というそれぞれの言葉で、いろいろな人たちが同時に共感できるのは、すごいなぁ、なんて思います。

今後、どういう仕事にチャレンジしたいですか？

●――絵本を書くのが夢なので、そういう事も長いスタンスでやれたらいいですね。役者としては、サイコパスとか、人格が破綻したような役もやってみたいです。

＊1――チャールズ・ブコウスキー（作家／詩人 1920-94）。五十歳から書き始め、五十冊の著書を残して七十四歳で他界。生涯ロサンゼルスで暮した。
＊2――「異形の愛」キャサリン・ダン著（ペヨトル工房刊）

絵に物語を感じられる
高い表現力と、
やさしく、いやみの無い
キャラクターに
感嘆します。

村田蓮爾

陳さんの絵をはじめて見たのは確か「ウルトラジャンプ」のピンナップだったと記憶しています。編集長が“台湾を代表するイラストレーターだよ”と言って見せてくれたその絵は、圧倒されるくらいしなやかで美しく、しばらく目が離せなくなったほどで、編集長の“よい”と言う言葉は十分に納得できるものでした。
平凡さんの絵もそのあと知って、お二人の高い表現力と、やさしく、いやみの無いキャラクターに感嘆すると同時に、絵を描く者として彼らと同じ世代に生きる幸福を感じるようになっていきました。
技術的には一枚絵のなかで緩急のつけ方とか、やわらかな表情をつくれる数少ないクリエーターの一人だと思います。“Yellow”（黄色）では、また二人に対する印象が変わりましたね。
機会があれば陳さん、平凡さんと一緒に作品作り……と言う事ですが、実現できるとうれしいですね。楽しみです。

Art
Chen, Shu-Fen/Common

Story
Yin Hua

Transration
Mariko Suzuki

Special Thanks to
Chang Ya-Hui at Sharp point Publishing.

Shopro Art & Monologue Book
イラストストーリー彩虹書

2000年２月10日　初版第１刷発行
2003年５月14日　初版第８刷発行

編集人：山本富洋
発行人：高石哲夫
発行所：(株)小学館プロダクション
〒101－8415　東京都 千代田区
神田神保町２丁目30番地 昭和ビル
編集 03-3515-6823
業務 03-3515-6815
販売 03-3515-6905
メールアドレス：編集 media1@shopro.co.jp
印刷・製本：凸版印刷株式会社

翻訳：鈴木麻里子
デザイン：堀渕伸治○tee graphics

SHOGAKUKAN PRODUCTON CO.,LTD.
Published Originally under the title:
Yellow: One Day Afternoon
Copyright©1999 Chen, Shu-Fen/Common/Yin Hua
Originally Published by Sharp point Publishing Co., Ltd.
ISBN 4-7968-7011-3 C0076
Printed in Japan

乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。